



カニズム関連の作業がひと通り完了した取材車の964カブリオレ、いよいよ次のステップである簡易型ソフトトップの製作へと駒を進めることになりました。アメリカ西海岸のように年間に数えるほどしか雨が降らないような地域ならいざ知らず、この日本のような気候では、たとえ晴れていても雨に対する備えのまったくないフェアリングの状態では出撃するのは、かなり勇気がいる行為ですね。

しかし、ここで大きな壁にブチ当たりました。色々と探してはみたものの、簡易型ソフトトップのような手間が掛かる物をワンオフで製作できるようなノウハウを持っているような工場は、私達が知っている範囲ではどこにも存在していませんでした。

ソフトトップということでは、最初はやはり幌屋さんかな？ と思って色々聞いてみたのですが、幌屋さんはすでにあるフレームに合わせて幌を製作するのが仕事であり、フレーム自体を製作する…それも今回のようにゼロからは専門外だったのです。

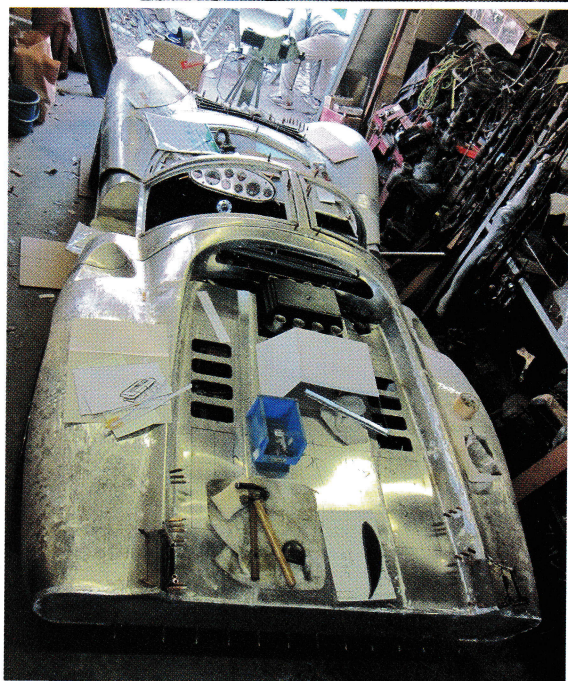
NAUTILUS SPORTS CARS

〒285-0041 千葉県佐倉市大佐倉1352-1

www.r380.jp

tel:043-486-9559 fax:043-485-5507

フレームからクルマを製作し、ナンバーまで付けてしまうという信じられない技術力で知られていますが、実は古川健一朗さんがたった一人で主宰している小さな工房。最近の話題作はこのディノ(ヤタベ)RS。ボディはアルミの叩き出し!



ポルシェ964カブリオレMT車

新車に戻すぞ How Much?

簡易式ホロ製作作戦第1弾 まずは達人に相談だ!

964が値上がる前に格安で手に入れたカブリオレMT車。様々なトラブルに見舞われ、かつスピードスター仕様にするなど、気付けば車両代より修理代の方が高くなっていたりして…。そして今月はいよいよ簡易式ホロの製作に突入する。果たして無事にホロが付くのでしょうか?

文●半谷範一

取材協力●スピードジャパン (tel:0586-67-3357 <http://www.speedjapan.co.jp>)

さて困った。どうしよう？

で、はたと思い当たったのが、以前から御懇意にさせていただいているノーチラス・スポーツカーズの古川健一郎さん。ゼロから（つまりフレームから）クルマを製作してしまうというカスタムカーのビルダーで、最近では『サーキットの狼』に登場したデイトナ・レーシングスベシタルの実車を製作したことで知られている工房です。

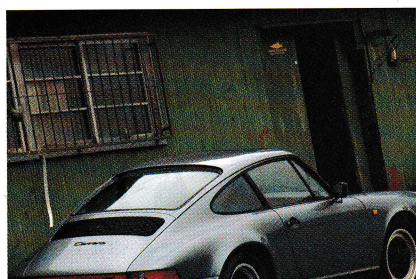
実は古川さんの工房の場所は我が家のすぐ近所。そこで、今回のプロジェクトでも力を貸していただけないかと考えたわけです。

実は古川さんは普段の足として64年のフォード・コルチナに乗り、シルバーストーン6（オーストラリア製のロータスMk6のレプリカ）も持ち手になっているような方。旧車などに関する造詣も深いので、まわりくどい説明なんかは一切不要です。例えば、私が「カニ目やコブラみたいな簡易型のソフトトップ」と一言いっただけで、すべてが伝わってしまいます。

「それじゃ、左右のこの場所からフレームを出しましょう。それで途中のこの辺りからもう一本、前にボタンと倒れるようして……ふんふん、トップの前端はここに止められるな。後側はここにホックをつけましょう」

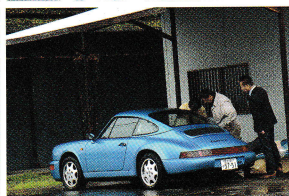
どうやら古川さんには、すでに完成した状態が見えている様子。何が可能か？ 不可能か？ まだ全部分かった上で判断しているので、私達とは見えている世界がまったく違います。

とりあえず現車を見て、相談にだけでも乗ってくださいと無理やりお願いしていたものの（笑）、やはり実際にプロトタイプの製作までお願いするしかなさそうですね。



それにしても違和感のないクーペボディの964カブリオレ

上が930のクーペボディで、下がハードトップをつけた964カブリオレ。それにしてもこのクルマのハードトップ、社外品とは思えないほど良くできてきます。さすがの古川さんでさえ、これは見事だと感心していました。スピードジャンプの小澤社長によると、この取材日は結構な雨だったにもかかわらず、室内には一滴の雨も侵入してこなかったとのこと。この品質なら自信を持って売れますね。今となっては、ホイールもノーマルが魅力的に見えますし、この年式の純正に戻したミラーも、以前より遥に見やすくなったそうです。



簡易型ホロ取付けの無理難題を次々にクリアしていく やっぱり“創る人”ってのは違うなあ

とりあえずハードトップからフェアリングに交換して、現車を前にしながらご相談。さすがに古川さんからの質問や提案は具体的なもののばかりで、やはり“創る人”は違うなあというのが正直な感想。私達が実現が難しいと思って諦めていたことでも、古川さんは「それはこうすれば巧く解決できますよ」と瞬時に答えが返ってきます。というわけで、次号からはいよいよプロトタイプの製作作業に入ることになります。

